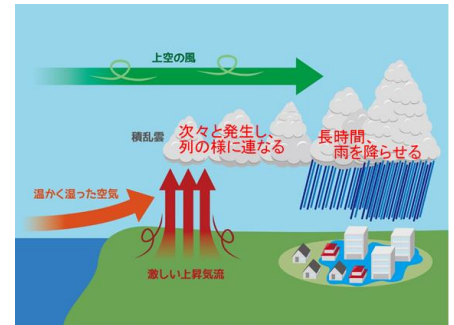




線状降水帯「半日前予測」

「もっとわくわく通信33号」で、線状降水帯にふれましたが、この線状降水帯は、2022年からは、半日から6時間前までに発生を予測できるようになり、11地方単位の「半日前予報」を発表してきました。この新システムは、スーパーコンピュータの計算力向上に伴い、局地的な予測が可能となったという訳です。現在は、43都道府県は府県単位で予報し、北海道・東京・鹿児島・沖縄の4都道県については、さらに地域を分割して予報を出しています。



さて、先月27日に、今年初の線状降水帯の半日前予測が出されたのは記憶に新しいところです。気象庁は、九州・沖縄・四国の7県に線状降水帯の「半日前予測」を出しました。ただ、いずれの地域も線状降水帯は発生しませんでした。28日夕方までの24時間総雨量は、予測の出た各県で200mmを超えるなど、記録的な大雨にはなったようです。気象庁の線状降水帯的中率は、現状4回に1回ですが、予測精度は年々向上しているといいます。気象庁の担当者は、「線状降水帯の原因となる水蒸気の上昇がどこで発生するのか、ピンポイントで予測するとは非常に難しく、『見逃し』はゼロにならない。『空振り』も残る。」と話しています。

そこで、私たちにできることが、予測も大事にすべきですが、積極的な情報収集です。気象庁では、大雨による災害発生危機度を地図上で確認できる「危機度分布」(愛称:キキクル)をホームページで公開しています。私もアクセスしてみましたが、大雨が予想されるときに、自分の住んでいる地域で土砂災害・浸水害・洪水災害の危機度について地図上で、確認できるばかりか、危機度を5段階に色分けして表示されるなど、危機度の視認性がとても高いことを実感しました。

キキクル URL <https://www.jma.go.jp/bosai/risk/>

6年生調理実習

先週は、家庭科室から美味しそうな香りが校長室まで漂ってきて、お腹がすいて困りました。その理由は、6年生が調理実習をしていたからです。6年生は、家庭科の時間に野菜いためを作っていました。様々な野菜の「彩り」も意識しながら、野菜を手際よく切り、そして炒めていました。子供たちの家庭での経験値の違いから、包丁の使い方に個人差はあるものの、それを補うように、調理組とアドバイス組とに分かれて実習に励んでいました。次の時間は、この役割を交代して、全ての子供たちが調理できる技能を身に付けていくそうです。お家でもぜひ、家庭科の学びを家庭化に繋げることができるよう、子供たちに任せ、活躍できる場面をつくっていただけるとありがたいです。

